

あおぞら国語科学習指導案

日 時：平成 26 年 11 月 12 日（水）

場 所：あおぞら教室

授業者：林 芳樹

- 1．単元名 かんじをたのしくおぼえよう
教材名 『カンジーはかせの大はつめい』

2．指導の立場

（１）教材観

「同じぶぶんをもつかんじ」「カンジーはかせの大はつめい」「かん字の読み方」は、通常学級の第 2 学年で漢字に関して学習する教材である。第 2 学年となると、習得する漢字の数が増え、画数も多くなる。また、音訓の読み替えや複数の音読みを学ぶようになる。漢字習得に意欲をもっていた児童も理解することが増え、覚えることに難しさを感じ、次第にやる気を失ってくる。そこで、「同じぶぶんをもつかんじ」では、複雑に見える漢字が基本的な形の組み合わせでできていることを理解させることで、漢字を覚える作業を容易にすることをねらいとしている。また、「カンジーはかせの大はつめい」では、ゲームやクイズ的な要素を学習活動に取り入れることによって学習意欲が向上することを意図している。さらに、「かん字の読み方」では、1 つの漢字にある何通りもの読みを繰り返し読み慣わせることで、読みの面におけるつまずきを取り除くことを目的としている。第 2 学年の教科書では、これらの教材が年間計画の中で間隔を適宜に空けて配置されており、漢字学習のつまずきを取り除くとともに、学習意欲を喚起させるようになっている。

漢字学習に関わる児童の実態を分析すると、つまずきの原初が第 2 学年にあることが明らかとなった。そこで、あえて第 2 学年の学習に立ち返り、これらの教材を集約して学習することで、漢字に関する興味を一気に高め、文字を書くことに興味をもち、漢字を用いながら身近なものやできごとを表記しようとする態度へと結び付けたい。また、漢字を含んだ分掌を読むことに対する抵抗感を和らげ、自分から進んで文章を読もうとする態度を身に付けさせたい。

（２）研究との関わり

【児童の実態】		A 児	B 児
		・自分の思いを言葉として表現したい欲求が強い。 ・文字を読み書きすることに対して、抵抗感が強く、進んで取り組めない。指導を工夫することで興味の高まりがみられるが、苦手意識は依然として強い。 ・集中力が持続する時間が極端に短く、興味の対象が次々と移ってしまうため、学力が定着しない。	・関心のある事柄については、積極的に取り組める。 ・漢字の読みはある程度できるが、書き順が身に付いてなく、漢字を図形のようにとらえているため、誤字が多い。漢字の組み立て方を指導しているが、なかなか理解できない。 ・自分から興味をもったことしか取り組めず、指示されたことは拒絶するため、基礎学習ができない。
研究内容(1)		研究内容(2)	
付けたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する。		考えを広め、深めるための効果的な交流活動を工夫する。	
付けたい力		・個々の発言を位置づける際、後から学習活動の実績を視覚的に確認できるようにすることで、仲間の発言を聞きながら自分の知識を増やし、自らの発言が認められることで充実感を得られるようにする。	
単元を貫く言語活動の設定			
・学習した漢字を自分の生活と結びつけてとらえようとする			
【めざす児童の姿】		A 児	B 児
		・漢字を読んだり書いたりすることに興味をもち、自ら取り組もうとすることができる。 ・漢字学習に興味をもつことで、学習に集中する時間を伸ばすことができる。	・漢字のつくりに興味をもち、書き順を意識して書こうとすることができる。 ・指示されたことを受け止めて、それに少しは従って学習活動に取り組むことができる。

3. 単元指導計画

【同じぶぶんをもつかん字】

漢字には同じ部分をもつものがあることを知り、部分に注意して漢字を読んだり書いたりすることができる。

1・2年【伝・国(2)ア】

<漢字学習のポイント>

形の認識 操作的学習 読む
書く クイズ・ゲーム的学習

【カンジーはかせの大はつめい】

漢字がいくつかの部分が組み合わさってできていることや2つの漢字の組み合わせで熟語ができることが体験的に楽しみながらおよそ理解できる。3・4年【伝・国(1)ウ(ウ)】

<漢字学習のポイント>

組み合わせ 操作的学習 読む練習
熟語学習 クイズ・ゲーム的学習

【かん字の読み方】

漢字にはいろいろな読み方をするものがあることを知り、簡単な文の中で正しく読むことができる。

3・4年【伝・国(1)イ(ウ)】

<漢字学習のポイント>

書き順 読む 書く
生活密着化 P Cの活用

次	時	ねらい	学習活動	漢字学習のポイント	指導の手立て 評価規準
1次	1	1・2年生で学習する漢字から、似ているところを持つ漢字を見つけ、仲間分けができる。	・かん字のひみつを知って、かん字はかせになろう。 にているかん字を見つけ、なかまに分けよう。 【深めの発問】同じぶぶんをみつけたそう。 2. 同じ部分をもつ漢字の仲間分けをする。 3. 仲間分けした漢字を読む。	形の認識 操作的学習 読む Q G的学習	- 迷子の漢字を家に連れて行くという設定で漢字の仲間分けをさせる。 - 漢字には同じ部分があることに気づき、進んで仲間分けをして漢字を読んでいる。
	2	2つの漢字から同じ部分を見つけ、それぞれの漢字を読んだり書いたりできる。	1. 2つの漢字から同じ部分を見つける。 2つのかん字からおなじところをみつけ、よんだりかいたりしよう。 【深めの発問】かん字を分けてみつけたそう。 2. それぞれの漢字を読んだり書いたりする。	形の認識 操作的学習 読む 書く	- 漢字を分解して同じ部分を見つけやすくする。 - 進んで同じ部分を見つけ、読んだり書いたりしている。
	3	新出漢字の中なかに、自分の知っている漢字の部分を見つけ、その漢字を書くことができる。	1. 新出漢字から、知っている漢字の部分を見つける。 はじめてのかん字からしっているところをみつけ、かいてみよう。 【深めの発問】どんなぶぶんがあったかおもいだそう。 2. 知っている漢字の部分をノートに書く。 3. 漢字の仲間分けクイズをする。	形の認識 読む 書く Q G的学習	- 前時までに学習した同じ部分を復習させ、提示しておく。 - 同じ部分を見つけて書き、仲間分けをしている。

次	時	ねらい	学習活動	漢字学習のポイント	指導の手立て 評価規準
2次	4 (本時 あおぞら)	・漢字には、組み合わせでできるものがあることを理解し、進んで問題に取り組むことができる。	1. 漢字を合体させる「機械」のしくみを知る。 かん字とかん字を合体させて、どんなかん字ができるか、かんがえよう。 【深めの発問】どこにくつつくかいろいろためそう。 2. 合体させる問題に取り組む。 3. どんな漢字を合体させたか考える。	組み合わせ 操作的学習 Q G的学習 読む	・漢字を合体させる「機械」で興味を高める。 漢字に興味をもち、いろいろと組み合わせで考えている。
	5	・漢字と漢字で言葉(熟語)ができることに気づくことができ、進んで問題に取り組むことができる。	1. 熟語を作る「弓矢」のしくみを知る。 ゆみやをあてて、かんじのことばをつくろう。 【深めの発問】じゅんばんに当ててよんでみよう。 2. 弓矢をあてる問題に取り組む。	熟語学習 Q G的学習 操作的学習 読む	・いろいろな組み合わせをさせて見つけさせる。 いろいろと組み合わせで、聞き慣れた熟語を見つけている。
	6	・漢字ゲームを通じて、多くの漢字に触れることにより、漢字への興味関心を高めることができる。	かん字ゲームをたのしくやろう。 1. 漢字合体クイズのやり方を知る。 2. 合体クイズに取り組む。 3. 漢字カードゲームのやり方を知る。 4. カードゲームに取り組む。	組み合わせ 熟語学習 Q G的学習 操作的学習	・漢字たし算、漢字神経衰弱をして定着を図る。 漢字ゲームを通じて、つくりや熟語に慣れ親しんでいる。
3次	7	・同じ漢字でも、違う読み方をすることに気付くことができ、読む練習ができる。	かん字のいろいろなよみかたをおぼえよう。 1. 同じ漢字でも違う読み方をすることを知る。 2. 「九」「日」の読み方を確かめる。 【深めの発問】よみかたをいろいろよそうしてみよう。 3. 「上」「下」の読み方を考える。 4. 「上」「下」の読み方を練習する。	読む 書く 書き順 生活密着化	・身近なもの結びつけ、漢字と生活を密着化させる。 使う言葉により、漢字の読み方がちがうことが分かる。
	8	・漢字には、送りがなが付くものがあることが分かり、送りがなに気を付けて読むことができる。	おくりがなのついたかん字をよもう。 1. 漢字には、送りがながつくものがあることを知る。 【深めの発問】2つのことばのちがいをみつけよう。 2. 送りがなに気を付けて読む。 3. 新出漢字を使って短文を作る。	読む 書く 生活密着化 P Cの活用	・パソコンを使うことで、自力で漢字の読みを調べさせる。 漢字の読み方を進んで調べようとしている。

4. 本時のねらい 漢字には、組み合わせでできるものがあることを理解し、進んで問題に取り組むことができる。

5. 本時の展開 (4 / 8)

学習活動とアイテム（○数字はアイテム番号）			個に応じた指導・援助	交流の形態	評価規準
A児		B児			
つかむ	1. 漢字合体マシンの説明を聞いて、「機械」のしくみを知る。「立」＋「日」→「音」		(A児) 1. やって見せた後、やらせてみることで、動きとしてしくみを理解させる。 3. 薄いカードを摘めないため、厚みのあるものとする ことで操作しやすいようにする。 4. 日常生活と結びつけさせて、興味を持続させる。 【深めの発問 の意図】 ・合体の操作をするとき、練習としてやった漢字の配置(上下に置く)にとらわれてしまい、なかなか見つけられない状態から抜け出させる。 【深めの発問 意図】 ・合体の操作をするとき、上下左右に配置するという発想しかできずにいる状態から、一方を小さくすれば中に組み込めることに気付かせる。 ペア交流（3～5） ・考えた答えを交互に発表させることで、適度に競争心を起こさせ、学習意欲を高め合えるようにする。	(B児) 1. 光や動きがあることで関心をもたせ、学習意欲を高める。 2. 漢字を読ませることで自尊心を高める。 3. 黒板に書けるという機会を与えて書きたい気持ちにする。	
	・実際に自分で操作して体感的に理解する。	・機械が光ったり、動いたりすることに関心をもつ。			
	2. 本時の学習課題を確認する。				
考えをもつ	かん字とかん字を合体させて、どんなかん字ができるか、考えよう。		【深めの発問 の意図】 ・合体の操作をするとき、練習としてやった漢字の配置(上下に置く)にとらわれてしまい、なかなか見つけられない状態から抜け出させる。 【深めの発問 意図】 ・合体の操作をするとき、上下左右に配置するという発想しかできずにいる状態から、一方を小さくすれば中に組み込めることに気付かせる。 ペア交流（3～5） ・考えた答えを交互に発表させることで、適度に競争心を起こさせ、学習意欲を高め合えるようにする。	(B児) 1. 光や動きがあることで関心をもたせ、学習意欲を高める。 2. 漢字を読ませることで自尊心を高める。 3. 黒板に書けるという機会を与えて書きたい気持ちにする。	
	・課題を声に出して読む。	・A児が課題の漢字が読めなかったとき読ませる。			
	3. 漢字を合体させる問題に取り組む。「田」＋「力」→「男」「山」＋「石」→「岩」				
深める	・発砲スチロールの漢字を操作して考える。	・カードに書いた漢字を操作して考える。	【深めの発問 の意図】 ・合体の操作をするとき、練習としてやった漢字の配置(上下に置く)にとらわれてしまい、なかなか見つけられない状態から抜け出させる。 【深めの発問 意図】 ・合体の操作をするとき、上下左右に配置するという発想しかできずにいる状態から、一方を小さくすれば中に組み込めることに気付かせる。 ペア交流（3～5） ・考えた答えを交互に発表させることで、適度に競争心を起こさせ、学習意欲を高め合えるようにする。	(B児) 1. 光や動きがあることで関心をもたせ、学習意欲を高める。 2. 漢字を読ませることで自尊心を高める。 3. 黒板に書けるという機会を与えて書きたい気持ちにする。	
	・できたら黒板に貼って、読みながら発表する。	・できたら黒板に書いて、発表する。			
	4. やや難しい問題に取り組む。「校」「早」「村」「名」「明」「絵」「切」「町」				
まとめる	・発砲スチロールの漢字を操作して考える。	・カードに書いた漢字を操作して考える。	【深めの発問 の意図】 ・合体の操作をするとき、練習としてやった漢字の配置(上下に置く)にとらわれてしまい、なかなか見つけられない状態から抜け出させる。 【深めの発問 意図】 ・合体の操作をするとき、上下左右に配置するという発想しかできずにいる状態から、一方を小さくすれば中に組み込めることに気付かせる。 ペア交流（3～5） ・考えた答えを交互に発表させることで、適度に競争心を起こさせ、学習意欲を高め合えるようにする。	(B児) 1. 光や動きがあることで関心をもたせ、学習意欲を高める。 2. 漢字を読ませることで自尊心を高める。 3. 黒板に書けるという機会を与えて書きたい気持ちにする。	
	【深めの発問】上下右左にいろいろ動かして合体させてみよう。				
	・発砲スチロールの漢字を操作して考える。次の活動として、その漢字を使った熟語を見つける。	・カードに書いた漢字を操作して考える。できたらプリントか黒板に書く。			
まとめ	5. かなり難しい問題に取り組む。「回」「間」「聞」 時間があれば「語」		【深めの発問 の意図】 ・合体の操作をするとき、練習としてやった漢字の配置(上下に置く)にとらわれてしまい、なかなか見つけられない状態から抜け出させる。 【深めの発問 意図】 ・合体の操作をするとき、上下左右に配置するという発想しかできずにいる状態から、一方を小さくすれば中に組み込めることに気付かせる。 ペア交流（3～5） ・考えた答えを交互に発表させることで、適度に競争心を起こさせ、学習意欲を高め合えるようにする。	(B児) 1. 光や動きがあることで関心をもたせ、学習意欲を高める。 2. 漢字を読ませることで自尊心を高める。 3. 黒板に書けるという機会を与えて書きたい気持ちにする。	
	【深めの発問】どちらかの字を小さくして合体させてみよう。				
	・発砲スチロールの漢字を操作して考え、その後に透明なシートにコピーしたものを2枚使う。	・カードに書いた漢字を操作して考え、その後に透明なシートにコピーしたものを2枚使う。			
まとめ	6. 今日の学習の感想、分かったことを発表する。		【深めの発問 の意図】 ・合体の操作をするとき、練習としてやった漢字の配置(上下に置く)にとらわれてしまい、なかなか見つけられない状態から抜け出させる。 【深めの発問 意図】 ・合体の操作をするとき、上下左右に配置するという発想しかできずにいる状態から、一方を小さくすれば中に組み込めることに気付かせる。 ペア交流（3～5） ・考えた答えを交互に発表させることで、適度に競争心を起こさせ、学習意欲を高め合えるようにする。	(B児) 1. 光や動きがあることで関心をもたせ、学習意欲を高める。 2. 漢字を読ませることで自尊心を高める。 3. 黒板に書けるという機会を与えて書きたい気持ちにする。	
	・今日の学習で楽しかったことを発表する。	・今日の学習で分かったことを含めて感想を発表する。			
	7. がんばった姿を互いに認め合う。				
まとめ	・B児の頑張ったことを発表する。		【深めの発問 の意図】 ・合体の操作をするとき、練習としてやった漢字の配置(上下に置く)にとらわれてしまい、なかなか見つけられない状態から抜け出させる。 【深めの発問 意図】 ・合体の操作をするとき、上下左右に配置するという発想しかできずにいる状態から、一方を小さくすれば中に組み込めることに気付かせる。 ペア交流（3～5） ・考えた答えを交互に発表させることで、適度に競争心を起こさせ、学習意欲を高め合えるようにする。	(B児) 1. 光や動きがあることで関心をもたせ、学習意欲を高める。 2. 漢字を読ませることで自尊心を高める。 3. 黒板に書けるという機会を与えて書きたい気持ちにする。	
	・A児の頑張ったことを発表する。				
	・A児の頑張ったことを発表する。				